

平成 29 年度千曲市総合教育会議議事録（要約）

1. 日 時

平成 29 年 6 月 28 日（水） 午前 11 時から正午

2. 場 所

千曲市役所戸倉庁舎 会議室 2

3. 会議日程

- (1) 開会
- (2) 市長あいさつ
- (3) 会議事項
- (4) 閉会

4. 議 題

- (1) 学びの改革基本構想について
- (2) その他

5. 出席者

出席者	市長	岡田 昭雄
	教育長	赤地 憲一
	教育長職務代理者	若林 由美子
	教育委員	武井 音兵衛
	教育委員	坂本 孝夫
	教育委員	中村 洋一
	教育委員	宮入 文雄
	企画政策部長	北村 勝則
	教育部長	安西 治夫
	教育指導幹	米澤 修一
	総合政策課長	齊藤 清行
	教育総務課長	坂井 道夫
	総合政策課	宮原 正浩
	教育総務課	滝沢 資之
	総合政策課	橘田 千比路

6. 議事

1. 開会（進行：北村企画政策部長）

2. 市長あいさつ

（岡田市長）

今年度第1回目の総合教育会議を開催するにあたり、あいさつ申し上げます。

昨年度は、この総合教育会議の場で熱のこもった議論をし、「千曲市教育大綱」を完成させることができた。独自色も織り交ぜた良い大綱ができたと感じており、この場を借りて感謝申し上げます。

現在、県では「学びの改革基本構想」が公表されているが、今日はこの構想について認識を共有し、地域課題や義務教育と高等教育の関係を考える千曲市のまちづくりとして捉え、方向性を出していくきっかけになればと考えている。

皆様の一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。

3. 会議事項

（1）学びの改革基本構想について

（岡田市長）

会議事項（1）の「学びの改革基本構想」について、米澤教育指導幹より説明をお願いします。

（米澤指導幹より説明）

（岡田市長）

10年前の第1期再編の際にも、屋代南高校が対象となったが、屋代南高校の卒業生は、市内・県内に残る割合が高い傾向があり、屋代南高は地域にとって貴重な存在であると考えている。

ただいまの説明は、現在公表されている県教育委員会での検討経過について解説していただいたものであるが、これに対して何か質問があればお出しいただきたい。

（坂本教育委員）

長野県教育委員会で作った「学びの改革基本構想」であるが、この中の表現で「社会の激変への対応」というのがある。この「社会の激変」という表現は、どこから引用したものか。

（米沢教育指導幹）

推測であることをお断りした上で申し上げるが、国際社会の中で求められる人材像が変化してきている中、新学習指導要領において自ら考え行動することができる子どもを育てることを目指し、「主体的・対話的で深い学び」をキーワードに挙げている。「学びの改革基本構想」は、この新学習指導要領の変化を念頭においているのではないかと捉えている。

（坂本教育委員）

この構想について詳細まで目を通してはいるわけではないが、少子化だから高校を減らそう、規模が小さくなれば学びの質が低下するという現存校の「3つの区分けの案」は結論ありきではないかと感じた。

(岡田市長)

学びの改革とは単に高校再編をするためのものなのか、教育の質を高めるためのものなのかをこれからしっかりと見極めていかなければならない。

(宮入教育委員)

小学校において、30人学級を導入しているが、高校においても30人学級のような形を検討すべきと思うがいかがか。

(米澤教育指導幹)

長野県では、小学校から中学校まで30人学級を導入している。文科省は小学校1年生を30人学級としているので、2年生から中学校3年生までは、長野県の負担で30人学級を維持している状況。高校まで30人学級を導入するとなると、県の負担はさらに大きくなると思う。

(中村教育委員)

40人学級については、県の既定路線であるという前提で議論を進めるべきと考える。

(岡田市長)

これからいろいろな情報が出てくると思うので、米澤教育指導幹には情報収集にあたっていただき、情報や課題を共有しながら対応をしていきたい。また、県教委との地域懇談会の場等で、我々の意見を伝えていく努力が必要と考えている。

本日は以上とし、「学びの改革基本構想」について、今後も理解を深めていただくことをお願いする。

4. 閉会

議事署名人
